

## ◇地元産業界との連携事業

『炭鉱遺産のサブストーリーの発掘及び地域資源化に係わる事業』

担当者：西村宣彦（経済学部教授）

共同研究者：濱田武士・市川大祐（経済学部教授）・藤田知也（経済学部准教授）

※北海道との包括連携協定に基づく協働事業の一つとして実施。

### 1. 連携先

北海道（空知総合振興局）

### 2. 連携事業における地域の課題及び課題解決に向けて設定した目標

空知総合振興局は、日本遺産「炭鉄港」の推進を目的に、その事務局として様々な関連事業を実施している。令和元年5月20日に文化庁に認定された「炭鉄港」は、更なる歴史発掘とその魅力発信が問われる。しかし、歴史発掘を行い、魅力発信を担う機関が十分に存在していない。そこで北海道と学校法人北海学園との包括連携協定に基づき、本学教員と連携・協力し、空知管内や「炭鉄港」に参画する自治体エリアを中心とした炭鉄遺産のサブストーリーの発掘や「炭鉄港」関連の地域資源の磨き上げに取り組むこととする。こうした活動を通じて、日本遺産としての価値を高めて、日本遺産登録の維持・継続を目標とする。

### 3. 事業の内容

「炭鉄港」推進協議会の事務局を担う北海道空知総合振興局と連携し、各地に眠る炭鉄港の「サブストーリー」や「サイドストーリー」を掘り起こすための調査・研究を行う。

また、旧産炭地域の地域資源の活用及び商品開発への助言等も行う。

## ◇地元産業界と連携した実践的 PBL を含む科目

### 『演習Ⅰ』

担当者：菅原浩信（経営学部教授）

#### 1. 連携先

北海道

#### 2. 受講対象学部・学科

- 1部 経営学部 経営学科（2年生以上）  
経営情報学科（2年生以上）

#### 3. 開講目的

今年度、「北海道学特別講義（道南いさりび鉄道・地域活性化プロジェクト）」の履修許可者が5名未満となり、非開講となったことを受けて、本演習のなかで道南いさりび鉄道とのコラボレーション・プロジェクトを展開する。

また、本演習に含まれるコラボレーション・プロジェクトは、北海道と学校法人北海学園の包括連携協定にもとづく協働事業の1つとして実施される。

※道南いさりび鉄道：

2016年3月の北海道新幹線開業に伴い、並行在来線となった旧 JR 江差線（木古内～五稜郭間）の運行を引き継いだ第3セクター鉄道

※コラボレーション・プロジェクト：

グループワーク形式で、特定の外部組織（NPO 法人やボランティア組織等）についての分析・考察を行い、その内容について当該組織に対してプレゼンテーションを行うもの。また、企画立案や事業推進に必要な能力の養成を図るため、本演習での分析・考察内容の一部について、次年度の演習Ⅱでは外部組織の支援を受けながら、実際に事業として取り組むことを原則とする。したがって、PBL とサービス・ラーニングの両方の要素を持つ。

#### 4. 具体的内容

本演習の中心の一つであるコラボレーション・プロジェクトについては、以下の順に沿って展開する。

- ①現地調査（組織・地域の現状および課題）
- ②組織の強み・弱み⇒組織を取り巻く機会・脅威
- ③目指すべき将来像、戦略の方向性（強み×機会、強み×脅威、弱み×機会および弱み×脅威）

#### ④取りまとめ

#### ⑤分析結果のプレゼンテーション

今年度実施するコラボレーション・プロジェクトの詳細は以下のとおりである。

道南いさりび鉄道ではいくつかのイベント列車を運行しているが、一つのイベント列車を除くと、ターゲットは主として沿線・近隣地域以外の観光客と考えられる。一方、2020年度に実施した木古内町民を対象とするアンケート調査では、沿線・近隣地域の住民においてイベント列車へのニーズが存在すると考えられる。

そこで、本演習では、「ながまれ海峡号」を対象として、前述した組織・地域の現状および課題を把握し、SWOT分析を行い、その結果のプレゼンテーションを実施する。

なお、次年度の演習Ⅱでは、学生の発想を活かし、沿線・近隣地域の地域資源等を活用した、主として沿線・近隣住民をターゲットとするイベント列車の企画提案を行うとともに、そのイベント列車を活用した沿線・近隣地域の地域振興方策および道南いさりび鉄道の利用促進方策を検討し、提案する。